

ACR Convergence 2024 in Washington D.C. 参加報告

東京都立小児総合医療センター 赤峰敬治

2024年11月14日から19日まで、Washington D.C.で開催されたACR Convergence 2024に参加してきました。気温は最低気温が3°C程度まで下がる日もありましたが、紅葉も見られ、秋らしい気候の中行われました。Washington D.C.はワシントン記念塔やアメリカ合衆国議会議事堂といった様々なモニュメントがあり、またすべての博物館と美術館は無料で、観光も楽しめる都市です。大統領選挙後すぐの開催であり、治安の懸念が少なからずありましたが、会期中は大きなトラブルはありませんでした。

日本人参加者は、先立って行われた全身型JIAの国際会議に出席された東京科学大学の清水正樹先生と伊良部仁先生、東京都立小児総合医療センターの赤峰敬治、東京女子医科大学の岸崇之先生の4人、そして米国からは、The Children's Hospital at Montefiore, NYのPediatric Rheumatology fellow 1年目の内藤千絵先生、熊本大学からBoston Children's Hospital, MAでpostdoctoral researcherとして研究に従事されている宮下雄輔先生、University of Colorado, COでprincipal investigatorとして研究に従事しつつ臨床も行っている蓬田健太郎先生、慶應義塾大学からNational Institutes of Health (NIH), MDで臨床研究を開始する大西卓磨先生の4人の合計8人が参加しました。学会参加費が、割引などなければ\$1,990と高額で、円安の影響か特に内科系の日本人参加者が少なかった印象でした。

日本人の演題は3つでした。岸先生は口頭発表、私と宮下先生ポスター発表しました。

- 岸先生：Scientific Sessionで「Treatment of anti-MDA5 juvenile dermatomyositis」
- 赤峰：「Efficacy of intra-articular glucocorticoids as a treatment for oligoarticular juvenile idiopathic arthritis: A bicentric retrospective study in Japan」
- 宮下先生：「Synovial resident memory T cell formation during inflammation requires cell contact with fibroblast-like synoviocytes」

広大な会場で行われたReview courseは、その領域の専門家が総論だけでなく、日常診療の疑問、痒いところに手が届くようなtipsについて講演されていました。小児領域では、systemic JIA-lung diseaseの病態についてや、生物学的製剤で治療すべきか否かの2つに分かれて、ディベート形式でdiscussionする試みがありました。映画Mission impossibleに模した企画であり、会場は非常に盛り上がりました。成人領域では、自己免疫性疾患に対するCAR-T療法についての機運が高まっていることを実感しました。

来年は10月24日～29日まで、シカゴで開催されます。



